

5. 看護の統合と実践

<考え方>

統合分野では、基礎分野・専門基礎分野、専門分野Ⅰ及びⅡの学習を、臨地に近い形で学習し、知識・技術を統合する。在宅看護論では、地域で生活しながら療養する人々とその家族を理解し、在宅での看護の基礎を学ぶ。看護の統合と実践では、看護管理、医療安全、災害看護、国際看護という、より臨床を意識した内容を学ぶ。また、臨地実習では、専門分野での実習を踏まえ実務に即した実習を行うとともに、卒業時看護技術到達度に向けて、自己の看護技術について評価できる能力を身につける。

<目的>

看護の専門的知識・技術・倫理観を統合し、臨地に応じた看護の実際を学ぶ。

<目標>

1. 対象を統合体として理解する。
2. 保健・医療・福祉における看護の機能と役割を幅広い視点で理解する。
3. 既習の知識を統合させ、応用的視点で活用する。
4. 科学的根拠に基づいた看護実践能力を強化する。
5. 看護観を深め、自己の看護観を確立する。

1) 科目一覧

分 野		学 科 目 名	時期	単位数	時間
看護の統合と実践	在宅看護論	在宅看護概論	2 年次前期	1	30
		在宅看護実践論Ⅰ	2 年次前期～後期	2	30
		在宅看護実践論Ⅱ	2 年次前期～後期	1	30
		在宅看護論学科合計 (4)		4	90
	看護の統合と実践	看護の統合と実践Ⅰ	2 年次後期	1	30
		看護の統合と実践Ⅱ	3 年次後期	1	30
		看護の統合と実践演習Ⅰ	2 年次後期	1	30
		看護の統合と実践演習Ⅱ	2 年次後期	1	15
		看護の統合と実践演習Ⅲ	3 年次後期	1	30
		看護の統合と実践演習Ⅳ	3 年次後期	1	30
		看護理論演習	3 年次後期	1	15
		統合科目学科合計 (4)		7	180
	臨地実習	在宅看護論実習	3 年次前期～後期	2	90
		看護の統合と実践実習	3 年次後期	2	90
	統合分野臨地実習合計 (4)			4	180
	統合分野合計 (12)			15	450

2) シラバス

(1)在宅看護論

分野	看護の統合と実践 －在宅看護論－	対象学年	2
		時期	前期
授業科目	在宅看護概論 Introduction to Home Care Nursing	単位	1
		時間	30
		方法	講義
担当教員	始業後、担当教員一覧および授業ガイダンスにて確認		
科目責任者	担当者複数の場合は、担当教員一覧にて確認		
授業概要	在宅看護の対象は、「在宅で療養する人とその家族」である。その人が生活してきた住み慣れた環境で生活するための活動を学ぶ。また、療養者の生活を支える法律・制度を学ぶ。		
目標	1. 在宅看護の意義を理解する。 2. 在宅看護の基盤となる理念と倫理的課題を理解する。 3. 在宅看護に関する指標を理解する。 4. 在宅看護と病棟看護の違いを理解する。 5. 社会資源の活用における看護師の役割を理解する。 6. 地域包括システムの概要を理解する。 7. 訪問看護の概略を理解する。 8. 介護保険制度成立の経緯を理解する。 9. 介護保険制度の概略を理解する。 10. 障害者総合支援法の概略を理解する。 11. ケアマネジメントの定義とプロセスを理解する。 12. 在宅ケアチームの意義と連携を理解する。 13. 家族看護の機能と役割を理解する。 14. 家族看護における看護師の役割を理解する。		
評価方法	終講試験100点		
使用テキスト	ナーシンググラフィカ 地域療養を支えるケア 石田千絵他編 メディカ出版 ナーシンググラフィカ 在宅療養を支える技術 石田千絵他編 メディカ出版		
参考図書	「わかりやすい介護保険」パンフレット		
メッセージ	入院している患者は、本来は自宅や地域で生活します。その人が願う療養生活を支えるために。地域の中でどのような社会資源が活用できるか考えることとても大切です。		

回数	単元・主題	授業のねらい	授業内容	方法	備考
1	在宅看護の意義	在宅看護の意義を理解する	1.在宅看護の意義 ①在宅看護とは ②訪問看護の場 ③在宅看護の社会背景 ④在宅看護を学ぶ目的 2.在宅看護の対象 ①在宅看護の対象 ②在宅看護の対象の特徴	GW 講義	
2	在宅看護の倫理	在宅看護の基盤となる理念と倫理的課題を理解する。	1. 在宅看護の基盤となる理念 2. 療養者中心の医療 ・意思決定の尊重 3. 在宅看護の倫理的課題	講義	

3	在宅看護に関連する指標	在宅看護に関連する指標から在宅看護の必要性を理解する	1.在宅看護に関連する指標 2.在宅ケアのニーズが高まった理由	講義	在宅看護に関連する指標を「国民衛生の動向」等を使って調べる。
4	在宅看護と病棟看護	在宅看護と病棟看護を理解する	1.在宅看護と病棟看護 ①在宅看護の目的 ②在宅看護の特性 ③訪問看護利用者の特性	GW 講義	在宅看護と病棟看護の違いについて考える。
5	社会資源	社会資源の活用における看護師の役割を理解する	1.社会資源とは ①フォーマルな支援システム ②フォーマルな支援システム ③在宅看護に関わる人的資源 ④在宅看護に関わる物的資源 2.社会資源活用における看護師の役割 3.訪問看護における社会資源活用 の実際	講義	事例をもとに社会資源の活用の実際を考える。
6	地域包括ケアシステム	地域包括ケアシステムの概略を理解する	1.地域包括ケアシステム ①地域包括ケアシステムオの定義 ②背景 2.地域包括ケアシステムの体制 ①地域包括支援センター 3.多職種の連携 ①地域連携クリニカルパス 4.看護師の役割	講義	
7	訪問看護	訪問看護の概略を理解する	1.訪問看護設置基準 2.訪問看護の歴史 ①家庭訪問 ②訪問指導 3.関係法規 ①老人保健法 ②医療保険 ③介護保険 ④難病 ⑤障害者総合支援法	講義	社会福祉概論で関係法規を履修するため、進度を確認し、必要時資料を持参してもらうようにする ・介護保険は当該年度の一般向けパンフレットを、サブテキストとして活用する

8	介護保険	1.介護保険制度成立の経緯を理解する 2.介護保険制度の概略を理解する	1.介護保険制度の復習 ①制度の成り立ち ・人口動態・衛生統計・世帯の変化等 ・政策の変化 ②介護保険利用までの流れ ③介護保険制度の変遷 2.介護支援専門員の役割 ①資格取得の方法 ②役割 ③さまざまな職場での役割の実際 3.地域包括支援センターの役割 ①制度の成り立ち ②施設の役割 ③成員と役割 ④関係職種との連携、活動の実際 ⑤地域ケア会議	講義 GW	GW を行いそれぞれの職種や施設の活動の実際について身近な事例で考える
9					
10	障害者総合支援法	障害者総合支援法の概略を理解する	1.障害者総合支援法 ①制度の成り立ち ・人口動態・衛生統計・世帯の変化等 ・政策の変化 ②制度利用までの流れ ③障害者に関わる制度の変遷 2.その他の制度 ①難病患者への支援 ②医療支援 ③さまざまな手帳	講義	
11	ケアマネジメント	1.ケアマネジメントの定義とプロセスを理解する 2.在宅ケアチームの意義と連携を理解する	1.ケアマネジメントの定義 2.ケアマネジメントのプロセス ①アセスメントの枠組みの理解 ・要介護認定訪問調査票 ・MDS-HD ・訪問看護財団式 ・三団体式 ・社会福祉士会式 ②介護サービス計画作成 ・居宅サービス計画書 1,2 ・週間サービス計画表 ・居宅介護支援経過 ・サービス提供表・提供表別表 ③訪問看護における記録 ・訪問看護指示書 ・訪問看護報告書 ・ケアプランに関わる用紙 ④評価 ・カンファレンス ・サービス担当者会議	講義 GW	・書類については実際の様式を用いる ・GW ではケアマネジメントを個人で展開する
12					

13	家族看護	1.家族看護に役割を述べられる 2.家族看護における看護師の役割を理解する	1.家族の機能と役割 ①世帯統計等から見る家族の形態の変化 ②現在の家族の看護・医療に関わる、問題 ③家族の機能 ④家族の理解のための理論 ・家族発達論 ・家族危機理論 ・家族システム理論 2.家族のセルフケア機能 ①指導場面における機能 3.家族看護での看護師の役割	講義 DVD GW	・自分の家族史を振り返り、家族の危機とそれを乗り越えた経緯を個人ワークする
14					
15			終講試験		

分野	看護の統合と実践 －在宅看護論－	対象学年	2
		時期	前期～後期
授業科目	在宅看護実践論Ⅰ Home Care Nursing PracticeⅠ	単位	2
		時間	30
		方法	講義
担当教員	始業後、担当教員一覧および授業ガイダンスにて確認		
科目責任者	担当者複数の場合は、担当教員一覧にて確認		
授業概要	在宅で療養する人と家族の健康上の問題と生活上の問題を理解し、在宅看護の機能と役割を学ぶ。		
目標	1. 施設から在宅に向けての看護の視点を理解する。 2. 在宅療養にむけての療養者とその家族の不安を理解する。 3. 退院に向けての支援と調整について理解する。 4. 在宅における様々な対象について理解する。（認知症療養者、長期臥床療養者、精神障害による療養者） 5. 在宅における様々な対象について理解する。（難病療養者、在宅療養児） 6. 在宅における様々な対象を理解する。（終末期の療養者） 7. 在宅におけるフィジカルアセスメントを理解する。 8. 在宅療養生活を理解する。 9. 在宅看護において大切な視点を理解する。 10. 在宅における問題解決方法の特徴を理解する。 11. 在宅看護における看護過程が展開する。 12. 在宅療養生活を支える法律を理解する。 13. 在宅看護における面接技術を理解する。 14. 在宅看護における面接技術の実際を体験する。		
評価方法	終講試験 100 点		
使用テキスト	ナーシンググラフィカ 地域療養を支えるケア 石田千絵他編 メディカ出版 ナーシンググラフィカ 在宅療養を支える技術 石田千絵他編 メディカ出版		
参考図書	「わかりやすい介護保険」パンフレット		
メッセージ	地域で生活する療養者を意識して、課題やグループワークに取り組んでください。		

回数	単元・主題	授業のねらい	授業内容	方法	備考
1	在宅看護における問題解決技術	在宅看護における問題解決方法の特徴が理解できる	1. 訪問看護における看護過程の特徴：場の違い、意思決定プロセス、家族の能力・介護力、社会資源の活用 2. アセスメントの視点 ①情報収集 ②アセスメント ③計画立案 ④実施 ⑤評価	Gw	・授業前に事例を提示し、希望を取り、各自が計画を立案する課題を出す。 ・事例ごとにG分けをする ・事前に課題を評価する
2		考え方をを用いて看護過程が展開できる	1. 在宅ケアプランの立案 事例をもとにグループで計画を立案する 2. 家庭訪問・初回訪問 訪問時の留意点、マナー、訪問終了後の行動の理解	講義 GW	・個人課題を返却しGWを行う ・次回模擬訪問のロールプレイを行うため、訪問時の行動を確認する

3	在宅における 面接・訪問技術	在宅における面接・訪問における 技術が体験できる	1.模擬面接 2.面接評価 評価の視点 ①マナー ②説明方法・理解度の確認 ③療養者・家族の自律尊重 ④家族力・介護力 ⑤社会資源の活用 3.まとめ	演習	・2 時限続けて設定する ・2 回目から2～3 週間後に行ない、準備をする ・評価表を提示し利用者・看護者側に分かれて模擬面接を行う ・評価表をもとに説明しながらまとめる
4					
5	継続看護	病院から在宅に向けての看護の視点を理解できる	1.継続看護 2.病院と在宅との継続看護	講義	
6	在宅療養にむけての対象の不安	在宅療養にむけての療養者とその家族の不安を理解できる	1.在宅療養への不安 2.病棟看護師としての退院指導の視点 3.退院に向けての指導	講義	
7	退院調整・退院支援の実践	退院に向けての支援と調整の実践を理解できる	1.退院支援とは 2.退院調整とは 3.退院調整看護師とその役割 4.退院支援・退院調整における連携	講義	退院調整 看護師
8	在宅看護における様々な対象	認知症療養者、長期臥床療養者の看護および精神障害による療養者について理解できる	1.在宅看護における様々な対象 ①認知症療養者の看護 ②長期臥床療養者の看護 ③精神障害による療養者	講義	
9		難病療養者の看護および在宅療養児の看護を理解できる	1.在宅看護における様々な対象 ①難病療養者の看護 ②在宅療養児の看護	講義	
10		終末期の療養者の看護を理解できる	1.在宅看護における様々な対象 ①終末期の療養者の看護	講義	
11	在宅における フィジカルアセスメント	在宅におけるフィジカルアセスメントを理解できる	在宅におけるフィジカルアセスメント ①バイタルサインを評価 ②腹部の聴診：腸蠕動音を評価 ③胸部の聴診：酸素の供給状態の評価 ④「今から次回訪問まで」アセスメント	講義 GW	

12	在宅療養生活を支える法律	在宅療養生活を支える法律を理解できる	在宅療養生活者を支える法律（事例を通して）	講義	訪問看護師
13	在宅療養生活の理解	在宅療養生活を理解できる	在宅療養者の生活事例から「生活の全体図」をまとめる	講義GW	在宅看護論実習の記録を活用し「生活の全体図」を書く。生活のなかで気になることから原因や誘引となることを考える。老年看護学と共通の事例を用いて考える。
14		在宅療養生活における大切な視点を理解できる	1.在宅看護で大切にしたい視点 ①療養者の思い 人生観、生きがい等 ②介護者の思い、介護者の健康状態 ③日常生活の自立度 ④生活環境 ⑤疾患、障害の状況 ⑥利用している社会資源	講義GW	
15			終講試験		

分野	看護の統合と実践 －在宅看護論－	対象学年	2
		時期	前期～後期
授業科目	在宅看護実践論Ⅱ Introduction to Home Care Nursing	単位	1
		時間	30
		方法	講義
担当教員	始業後、担当教員一覧および授業ガイダンスにて確認		
科目責任者	担当者複数の場合は、担当教員一覧にて確認		
授業概要	生活の場で個々の健康障害や生活条件に合わせ、可能な限り自立できることを目指して日常生活の援助がされる。在宅における看護の援助技術を学び実践する。		
目標	1. 在宅における食事と排泄の援助を理解する。 2. 在宅における移動の援助を理解する 3. 在宅における清潔の援助を理解する。 4. 在宅における感染予防を理解する。 5. 在宅における日常生活の援助の実際を体験する。 6. 在宅における日常生活の援助の実際を体験する。 7. 臥床療養者の洗髪の実際を体験する。 8. 在宅人工呼吸療法をしている療養者の援助を理解する 9. 在宅酸素療法と在宅中心静脈栄養法をしている療養者の援助を理解する。 10. 在宅経管栄養法在宅中心静脈栄養法をしている療養者の援助を理解する。 11. 腹膜透析をしている療養者の援助を理解する。 12. 在宅におけるターミナルケアを理解する。 13. 地域ケア体制を理解する。 14. 在宅における災害時の看護を理解する。		
評価方法	終講試験 100 点		
使用テキスト	ナーシンググラフィカ 地域療養を支えるケア 石田千絵他編 メディカ出版 ナーシンググラフィカ 在宅療養を支える技術 石田千絵他編 メディカ出版		
参考図書	「わかりやすい介護保険」パンフレット		
メッセージ	今まで学習した内容を活かして、在宅で行われている医療処置・日常生活の援助を学びます。病気や障害のある方々が生活の場でよりよく過ごすためにはどうしたらよいか考えましょう。		

回数	単元・主題	授業のねらい	授業内容	方法	備考
1	在宅における食事・排泄の援助	在宅における食事・排泄の援助を理解する	1.在宅における食の援助 ①食のアセスメント ②食の援助の実際と技術 2.在宅における排泄の援助 ①排泄のアセスメント ②排泄の援助と技術 ③家族の指導	講義	課題レポートの提出
2	在宅における移動の援助	在宅における移動の援助を理解する	1.在宅における移動の援助 ①移動のアセスメント ②移動の援助と技術 ③家族や介護者への指導	講義	課題レポートの提出
3	在宅における清潔の援助	在宅における清潔の援助を理解する	1.在宅における清潔の援助 ①清潔のアセスメント ②清潔の援助と技術 ③家族の指導	講義	課題レポートの提出

4	在宅における感染予防	在宅における感染予防を理解できる	1.在宅における感染予防 ①在宅療養者と感染症 ②感染予防・早期発見 ③家族の指導	講義	
5	在宅における日常生活援助の実際①	在宅における日常生活援助を実施できる (リフトの操作、移動、更衣、杖使用の階段昇降・ケリーパッド作成)	1.在宅における日常生活援助の実際 ・リフトの操作・起立動作・風呂への移動 ・車椅子トイレへの移動・更衣介助 杖使用の階段昇降・ケリーパッド作成	演習	演習レポートの提出
6					
7	在宅における日常生活援助の実際②	臥床している療養者の洗髪を実施できる	1.在宅における日常生活援助の実際 臥床している療養者の洗髪	演習	演習レポートの提出
8	在宅人工呼吸療法をしている療養者の援助	在宅人工呼吸療法（HMV）している療養者の援助を理解できる	1.在宅人工呼吸療法（HMV） ①在宅人工呼吸療法とは ②在宅人工呼吸療法の指導と安全管理 ③療養者と家族への指導	講義 DVD	
9	在宅酸素療法をしている療養者の援助	在宅酸素療法（HOT）している療養者の援助を理解できる	1.在宅酸素療法（HOT） ①在宅酸素療法とは ②在宅酸素療法の指導と安全管理 ③療養者と家族への指導	講義	
10	在宅経管栄養法・在宅中心静脈栄養法をして療養者の援助	在宅経管栄養法・在宅中心静脈栄養法をして療養者の援助を理解できる	1.在宅経管栄養法をして療養者の援助 ①在宅経管栄養法とは ②経管栄養の方法 ③胃瘻栄養法とは ・家族への指導 ・トラブル・合併症の予防と対処 2.在宅中心静脈栄養法をして療養者の援助 ①在宅中心静脈栄養法とは ②在宅中心静脈栄養法に関する指導 ③日常生活上の指導	講義	
11	腹膜透析（CAPD）をしている療養者の援助	腹膜透析（CAPD）をしている療養者の援助を理解できる	1.腹膜透析（CAPD）をしている療養者の援助 ①腹膜透析（CAPD）とは ②腹膜透析（CAPD）の管理 ③日常生活上の指導	講義	
12	在宅におけるターミナルケア	在宅におけるターミナルケアを理解できる	1.在宅におけるターミナルケア ①在宅ターミナルケアの対象者 ②在宅ターミナルケアの条件 ③在宅ターミナルケアで提供される援助 ④医療チームづくり ⑤遺族へのケア グリーフケア	講義	

13	地域ケア体制	地域ケア体制が理解できる	1.在宅ケアにおける関係機関。関係職種 病院内、地域連携室、地域包括支援センター、 訪問看護 2.主な在宅療養者への関わり ①子どもの支援 ②障害・難病療養者の支援 ③精神疾患療養者の支援 ④がん末期患者の支援 ⑤高齢者のための支援 3.地域支援のためのシステムとネットワーク 4.地域包括ケアシステムと在宅ケア	講義	
14	災害時の看護	在宅における災害時の看護が理解できる	1.災害と在宅療養者の特徴 2.災害各期における特徴と看護 3.地域での取り組み 4.看護職の役割	講義	
15			終講試験		

(2)看護の統合と実践

分野	看護の統合と実践 －看護の統合と実践－	対象学年	2
		時期	後期
授業科目	看護の統合と実践Ⅰ Integration and Nursing PracticeⅠ	単位	1
		時間	30
		方法	講義
担当教員	始業後、担当教員一覧および授業ガイダンスにて確認		
科目責任者	担当者複数の場合は、担当教員一覧にて確認		
授業概要	医療チームの一員としての、看護サービスを行うための基礎的知識である看護管理および倫理と医療制度を学ぶ。		
目標	1. 医療の仕組みを理解する。 2. 保健医療福祉における看護の役割と機能について理解する。 3. 看護をマネジメントできる基礎的知識を理解する。 4. 生命の尊重と尊厳から看護倫理について理解する。		
評価方法	看護管理：筆記試験 50 点 倫理と看護制度：筆記試験とグループワーク後のレポートの評価を合わせて 50 点		
使用テキスト	系統看護学講座 統合分野 看護管理 看護の統合と実践【1】医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学【1】 看護学概論 医学書院		
参考図書			
メッセージ	看護とは何か、看護職とは何か、看護者の倫理綱領・患者の求める倫理的看護について、どのような内容があるか更に学びを深めてみよう。		

回数	単元・主題	授業のねらい	授業内容	方法	備考
1	看護におけるマネジメント	病院の組織、看護管理、看護におけるマネジメントについて理解する	<1～8 看護管理> 看護とマネジメント 1)病院の組織、看護管理とは 2)看護におけるマネジメントとは	講義	外部講師
2	看護ケアのマネジメントと看護職の機能	看護ケアのマネジメントと看護職の機能について理解する	看護ケアのマネジメントと看護職の機能 1)看護ケアのマネジメントと看護職 2)患者の権利の尊重、患者の権利、インフォームドコンセント	講義	外部講師
3	看護ケアのマネジメントと安全管理	医療安全および専門職とキャリア開発について理解する	看護ケアのマネジメント 1)医療安全について 2)専門職とキャリア開発	講義	外部講師
4	看護ケアのマネジメントとチーム医療	チーム医療について理解する	看護ケアのマネジメント 1)チーム医療について	講義	外部講師
5	看護サービスのマネジメントと看護管理	看護管理・患者管理および労働環境について理解する	看護サービスのマネジメント 1)看護管理・患者管理 2)労働環境について	講義	外部講師
6	看護サービスのマネジメントと看護政策	看護師とは、看護政策について理解する	看護サービスのマネジメント 1)看護師とは、看護政策	講義	外部講師
7	マネジメントに必要な知識と技術	リーダーシップについて理解する	マネジメントに必要な知識と技術 1)リーダーシップについて	講義	外部講師
8	リーダーシップとマネジメント	リーダーシップとマネジメントについて理解する	マネジメントに必要な知識と技術 2)リーダーシップとマネジメント	講義	外部講師

9	倫理と看護師の倫理綱領	倫理と価値観、倫理を学ぶ目的と重要性、看護師の倫理綱領、患者の権利について理解する	＜9～12 倫理と看護制度＞ 倫理とは 倫理と価値観、倫理を学ぶ目的と重要性 看護師の倫理綱領、患者の権利	講義	外部講師
10	職業倫理	職業倫理について理解する	職業倫理 個人情報保護法、倫理の原則、 臨床倫理の4分割法、 看護師の立場と倫理的ジレンマ	講義	外部講師
11	非倫理的事例検討	倫理的に問題がある事例について、倫理綱領と倫理の原則と照らして検討する	倫理的に問題がある事例の検討 グループワーク (倫理綱領と倫理の原則と照らして)	講義 GW	外部講師
12	看護を取り巻く諸制度	保健師助産師看護師法、看護師の 人材確保の促進に関する法律、 医療法について理解する	看護職の定義 保健師助産師看護師法、 看護師の人材確保の促進に関する法律、医療法	講義	外部講師
13	看護の制度（基礎教育、継続教育）	国民医療費の動向、労働関係 法規、看護における法的責任、 看護職の教育制度について理解 する	病床区分と基準 国民医療費の動向、労働関係法規 看護における法的責任、看護職の教育制度	講義	外部講師
14	医療保険制度	保険診療における支払いシステム、診療報酬、診療報酬における 看護サービスの評価について 理解する	医療保険制度 保険診療における支払いシステム 診療報酬、診療報酬における看護サービスの 評価	講義	外部講師
15			終講試験		

176

6	感染管理	感染管理 関係法規、感染管理組織と看護師 について理解する	<6～9 感染管理> 関係法規、感染管理組織と看護師	講義	外部講師
7	標準予防策	感染管理の実際 病棟内での心がまえ、標準予防策 を理解する	感染管理の実際 病棟内での心がまえ、標準予防策	講義	外部講師
8	感染経路別予防 策	感染管理の実際 標準予防策、防護用具、針刺し 予防を理解する	感染管理の実際 標準予防策、防護用具、針刺し予防	講義	外部講師
9	看護ケアと感染 対策	感染管理の実際 経路別予防策、看護ケアと感染 対策を理解する	感染管理の実際 経路別予防策、看護ケアと感染対策	講義	外部講師
10	災害の種類と分 類	災害の種類と分類 災害サイクル、災害要援護者、 災害看護の役割を理解する	<10～12 災害看護> 災害の種類と分類 災害サイクル、災害要援護者、災害看護の役割	講義	外部講師
11	災害医療の特徴	トリアージおよび災害拠点病院 について理解する	トリアージ、災害拠点病院	講義	外部講師
12	トリアージの実 際	トリアージの方法を理解する	トリアージの方法	演習	外部講師
13	国際看護 国際看護の目的 と世界共通の目 標	世界共通の目標を理解する 看護師の役割からアプローチで きる目標を見いだす	1. 国際協力について 1) ODA 2) OECD 3) 国際機関 2. グローバルヘルス 1) プライマリヘルスケア 2) 世界共通の目標 (1) MDGS (2) SDGS	GW	専任教員
14	国際看護 世界で活動する 看護師	世界における看護師の活動がわ かる	1. 海外活動の実際 1) 国際協力 2) 文化を考慮した看護	講義	外部講師
15			終講試験		

分野	看護の統合と実践 －看護の統合と実践－	対象学年	2
		時期	後期
授業科目	看護の統合と実践演習Ⅰ Integration and practice Nursing PracticeⅠ	単位	1
		時間	30
		方法	講義
担当教員	始業後、担当教員一覧および授業ガイダンスにて確認		
科目責任者	担当者複数の場合は、担当教員一覧にて確認		
授業概要	成人看護学、老年看護学、精神看護学で学習した内容を統合し、看護の展開を学ぶ。		
目標	1. 成人にある事例をもとに看護診断が導き出せる。 2. 成人期にある人の特徴を考えて、成果を導くことができる。 3. 成人期にある人の特徴を考えて、介入を導くことができる。 4. 成人期にある人の看護を考えることができる。 5. 生活機能の枠組みに沿った情報整理ができる。 6. 生活機能の観点、統合的な視点からの考え方・アセスメントが理解できる。 7. 事例の強みを生かす、退院後の希望する生活につなげる援助計画立案ができる。 8. 生活のしにくさと自我機能を踏まえた情報整理とアセスメントが理解できる。 9. ストレングスや自己決定の力を踏まえセルフケアレベルを導くことができる。 10. セルフケア能力と優先度を考慮した援助計画の立案ができる。		
評価方法	課題内容および演習での態度を総合して評価する。 成人看護学領域：34点、老年看護学領域 33点、精神看護学領域：33点		
使用テキスト	＜成人看護学＞ 看護過程にそった対症看護 学研 NANDA-I 看護診断 定義と分類 北米看護診断協会 NEW 実践！看護診断を導く情報収集アセスメント 第4版 学研 系統看護学講座 専門Ⅱ 消化器 成人看護学【5】医学書院 ＜老年看護学＞ 看護過程にそった対症看護 学研 NANDA-I 看護診断 定義と分類 北米看護診断協会 NEW 実践！看護診断を導く情報収集アセスメント 第4版 学研 ナーシンググラフィカ 高齢者の健康と障害 メディカ出版 ナーシンググラフィカ 高齢者看護の実践 メディカ出版 ＜精神看護学＞ 系統看護学講座 専門Ⅱ 精神看護学【1】精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ 精神看護学【2】精神看護の展開 医学書院 オレムのセルフケアモデル 事例を用いた看護過程の展開 第2版 ヌーベルヒロカワ		
参考図書	やさしく学ぶ看護理論 中範囲理論入門		
メッセージ	＜成人看護学＞ 看護過程は看護をする上で必要な思考過程です。成人期ある人の特徴を捉えて具体的な看護を考えていきましょう。 ＜老年看護学＞ 生活機能の観点から捉えることの意味を考えながら、実践に結びつけられるようにしっかりと取り組みましょう。老年看護の基本となる考え方ですので、より具体的な計画となるよう柔軟な発想で考えていきましょう。 ＜精神看護学＞ 本人が持つセルフケアの力を考えていくことが大切です。精神看護学の授業内容を活かし取り組みましょう。わからないことは積極的に質問しましょう。		

回数	単元・主題	授業のねらい	授業内容	方法	備考
1	I. 成人看護学 1.対象理解とは	<成人看護学> 対象理解とはなにか考える	<1～5 看護過程演習：成人看護学領域> 肝硬変の対象事例 1)看護過程とは 2)対象理解とは 3) 成人看護 4)肝硬変の対象の看護 5)対症看護 6)慢性期看護	講義 GW	看護 過程 演習
2	2.各領域のアセスメント	NANDA-I 領域をもとにアセスメントする	NANDA-I 領域に基づくアセスメント 各領域では何をアセスメントするのか	講義 GW	看護 過程 演習
3	3.看護上の問題・看護診断	各領域でのアセスメントを統合し、対象理解し、看護診断を導き出す	各領域の関連 統合アセスメント どのような人かを考える 看護問題を考え、看護診断を導く 看護診断の導き出し方	講義 GW	看護 過程 演習
4	4.看護目標・成果	看護目標を考え、患者成果を導く過程を理解する	看護目標を考え、成果を導く 成果指標の表現・期間 対象の現在の状態の理解	講義 GW	看護 過程 演習
5	5.看護計画立案	看護計画立案を理解する	看護計画立案 成人期の特徴を踏まえた個別性を考える	講義 GW	看護 過程 演習
6	II. 老年看護学 1.対象理解	<老年看護学> 生活機能の枠組みに沿った情報整理の仕方を理解する	<6～10 看護過程演習：老年看護学領域> 1)生活機能の枠組みに沿った情報整理の仕方 2)生活機能の観点、統合的な視点からの考え方・アセスメント 1 回目	講義	看護 過程 演習
7	2.各領域のアセスメント	生活機能の観点、統合的な視点からの考え方・アセスメントを理解する	3)生活機能の観点、統合的な視点からの考え方・アセスメント 2 回目	講義 GW	看護 過程 演習
8	3.生活を支える社会資源	対象の生活を支える制度と社会資源について理解する	4)対象の生活を支える制度と社会資源活用	講義 GW	看護 過程 演習
9	4.看護上の問題（焦点）	関連図・統合アセスメントを理解する	5)関連図・統合アセスメント	講義 GW	看護 過程 演習
10	5.看護目標 看護計画立案	事例の強みを生かす、退院後の希望する生活につなげる看護目標、援助計画立案について理解する	6)事例の強みを生かす、退院後の希望する生活につなげる援助計画立案について	講義 GW	看護 過程 演習
11	III. 精神看護学 1.オレム－アンダーウッドモデルの看護過程とは	<精神看護学> 精神看護における対象理解とオレム－アンダーウッドモデルの看護過程の活用を理解する	<11～15 看護過程演習：精神看護学領域> 1) オレム－アンダーウッドモデルの看護過程 精神における対象理解 基本的条件付けの確認 普遍的セルフケア要素の確認 情報整理	講義 GW	看護 過程 演習
12	2.普遍的セルフケア要素のアセスメント	生活のしにくさと自我機能を踏まえたセルフケアの状態の捉え方とアセスメントを理解する	2)生活のしにくさと自我機能を踏まえたセルフケアの状態の捉え方とアセスメント アセスメント 全体関連図	講義 GW	看護 過程 演習

13	3.セルフケアの状態とセルフケアレベル	ストレングスや自己決定の力を踏まえたセルフケアレベルの判断を理解する	3)ストレングスや自己決定の力を踏まえたセルフケアレベルの判断 アセスメントからセルフケアレベルを判断	講義 GW	看護 過程 演習
14	4.看護目標	個別性と優先度を考慮した看護目標の立案を理解する	4)個別性と優先度を考慮した看護目標の立案 看護目標と成果	講義 GW	看護 過程 演習
15	5.看護計画立案	個別性と優先度を考慮した援助計画の立案を理解する	5)個別性と優先度を考慮した援助計画の立案 看護計画立案 まとめ	講義 GW	看護 過程 演習

分野	看護の統合と実践 －看護の統合と実践－	対象学年	2
		時期	後期
授業科目	看護の統合と実践演習Ⅱ Integration and practice Nursing Practice Ⅱ	単位	1
		時間	15
		方法	講義・演習
担当教員	始業後、担当教員一覧および授業ガイダンスにて確認		
科目責任者	担当者複数の場合は、担当教員一覧にて確認		
授業概要	既習の知識を統合し、看護実践を看護組織・個別の対象に対するマネジメントについて学ぶ。老年看護学実習Ⅰでの対象に提供されるケアの経験を活かし、ケーススタディをまとめ、個別のマネジメントを理解する。自分の看護実践によってもたらされた患者の反応を「客観的」に捉え、看護実践の根拠や看護によってもたらされた患者の反応のもつ意味などについて、文献検討を通して、「科学的」に追及し、看護実践を整理し、わかりやすく「論述」する能力を養う。		
目標	1. 老年看護学実習Ⅰの経験をもとに、看護組織のマネジメントを理解する。 2. ケーススタディをまとめることにより、個別のマネジメントを理解する。		
評価方法	課題レポート：看護組織におけるマネジメント（20点） ケーススタディレポート評価（80点）		
使用テキスト	看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方 照林社		
参考図書			
メッセージ	組織の中で目標達成のために自分が、どのように行動するか、個人としてだけでなく、全体として看護のマネジメントを考えていくことが大切です。また、ケーススタディをはじめてまとめるにあたり、研究の目的・動機を大切に、実践した結果の意味づけをすることが大切です。		

回数	単元・主題	授業のねらい	授業内容	方法	備考
1	看護組織におけるマネジメント<1>	看護組織におけるマネジメントの実際について述べられる	看護組織におけるマネジメントの実際① 老年看護学実習Ⅰでの体験から、看護組織におけるマネジメントの実際についてグループで話し合う。	GW	老年看護学実習での体験を話し合いまとめる
2	看護組織におけるマネージメント<2>	看護組織におけるマネジメントの実際について述べられる	看護組織におけるマネジメントの実際② グループで話し合った内容をまとめ発表する。 その後、意見交換を行う。	GW 発表	グループ毎に発表し意見交換
3	個別のマネージメント ケーススタディの計画	1. ケーススタディの意義を理解し、目的を明確にする 2. ケーススタディの計画を作成する 3. 「はじめに」に動機、目的、テーマ設定を論理的に表現する	個別のマネジメントの実際 1) ケーススタディの意義と目的を明確にする。 ケーススタディの計画書を利用し、テーマ・動機・目的を明らかにする。研究のタイムスケジュールを考える。 2) はじめに 「はじめに」に動機、目的、テーマ設定を論理的に表現する。	講義 個人ワーク	老年看護学実習Ⅰ 実集記録をもとに患者の全体像をまとめる
4	ケーススタディ<1>患者紹介と看護の実際	1. 得られた情報の中から必要な情報を選択し、患者紹介を記述する 2. 看護の実践と経過を研究目的に沿って適切に記述する	2) ケーススタディ：患者紹介と看護の実際 看護の実践と経過を適切に記述する。	講義 個人ワーク	

5	ケーススタディ ＜2＞考察	得られた結果を解釈し、意味づけし文章化する	3) ケーススタディ：考察（結果の解釈） 実施結果の意味づけ・解釈、文献を活用し、実践したことを振り返る。	講義 個人ワーク	
6	ケーススタディ ＜3＞全体のまとめ①	ケーススタディの目的・対象の特性、方法など簡潔に表される「表題」をつける	4) ケーススタディ：全体のまとめ① ケーススタディの目的・対象の特性、方法など簡潔に表される「表題」をつける。	講義 個人ワーク	
7	ケーススタディ ＜4＞全体のまとめ②	ケーススタディの構成に従って文章化したものの一貫性、論理性を見直し、追加・修正する	5) ケーススタディ：全体のまとめ② ケーススタディの構成に従って文章化したものの一貫性、論理性を見直し、追加・修正する。	講義 個人ワーク	
8	ケーススタディ ＜5＞まとめ	ケーススタディの構成に従い、文章化したものを見直し、追加・修正をする	6) まとめ ケーススタディの目的が達成されたか、ケーススタディの意義を振り返る。	講義 GW 個人ワーク	

分野	看護の統合と実践 －看護の統合と実践－	対象学年	3
		時期	後期
授業科目	看護の統合と実践演習Ⅲ Integration and practice Nursing Practice Ⅲ	単位	1
		時間	30
		方法	講義・演習
担当教員	始業後、担当教員一覧および授業ガイダンスにて確認		
科目責任者	担当者複数の場合は、担当教員一覧にて確認		
授業概要	領域別実習終了後、統合カンファレンスを行い、あらゆる対象に応じた看護について学んだ知識・技術を統合する。 また、緊急・突発要件の発生時に適切な判断・対応を求められる中で、安全な看護の提供と複雑な状況での判断・対応ができるようより臨床に近い環境を想定し、看護の実践を学ぶ。		
目標	1. あらゆる対象に応じた看護について学んだ知識・技術を統合する 2. タイムプレッシャー・多重課題発生時の対応が実践できる。 3. 緊急時の対応が実践できる。 4. 自己の傾向を踏まえ今後の課題を考える。		
評価方法	各領域(基礎以外)の統合カファレンス：各領域6点 計36点 演習の参加態度を総合して判断する。 多重業務・業務中断等事例演習：64点 事前課題、個人ワーク・グループワークレポート、演習参加態度を総合して評価する。		
使用テキスト			
参考図書			
メッセージ	<各領域の統合カファレンス> 領域別看護を学ぶ最後の機会となります。自己の気づきや考えを表現してみましょう。 <多重業務・業務中断等事例演習> 多重課題発生時どのように考えどのように行動するか考えましょう。 今までの行動を振り返り、自己の傾向と課題を明らかにしましょう。		

回数	単元・主題	授業のねらい	授業内容	方法	備考
1	精神看護学実習の学びの統合	精神看護について、既習の知識と実習での学びを統合する	<1～6：3年次領域別実習終了後の統合カファレンス> 1) 精神看護学実習後の統合カファレンス テーマ：領域別実習を終えて、今考える精神看護		
2	老年看護学実習の学びの統合	老年看護について、既習の知識と実習での学びを統合する	2) 老年看護学実習後の統合カファレンス テーマ：生活機能に視点を置いた援助の効果について考える		
3	成人看護学実習の学びの統合	成人看護について、既習の知識と実習での学びを統合する	3) 成人看護学実習後の統合カファレンス テーマ：成人期にある対象への健康状態に応じた看護について		
4	在宅看護論実習の学びの統合	在宅看護について、既習の知識と実習での学びを統合する。	4) 在宅看護論実習後の統合カファレンス テーマ：在宅で生活する療養者とその家族の看護		
5	母性看護学実習の学びの統合	母性看護について、既習の知識と実習での学びを統合する	5) 母性看護学実習後の統合カファレンス テーマ：「周産期および新生児期にある対象への看護とは」		
6	小児看護学実習の学びの統合	小児看護について、既習の知識と実習での学びを統合する	6) 小児看護学実習後の統合カファレンス テーマ：様々な場で生活する子どもの看護実践とは		

7	多重課題時の総合判断（１）	事例を読み、対象の状態を理解し、Q1・2 の対応を個人で考える	時間制限、割り込み業務、業務中断、多重処置の入った事例を使った演習を行い分析する 事例を読み対象の状態を理解し、Q1・2 の対応を個人で考える		
8	多重課題時の総合判断（２）	事例を読み、対象の状態を理解し、Q1・2 の対応をグループで考える	Q1・2 の対応をグループで考える	GW	
9	多重課題時の総合判断、実際	複数受け持ち、タイムプレッシャーの中、多重課題をどのように判断するか実践しながら考える	場面①の状況に対するQ1：患者Aの援助中に患者Bへの対応をどうするか。患者Aからどのように離れればよいかをタイムプレッシャーの中、多重課題をどのように判断するか実践しながら考える。	演習	
10	（３）（４）				
11	多重課題時の総合判断、実際（５）	複数受け持ち、タイムプレッシャーの中、多重課題時の総合判断が述べられる	グループ発表（プレゼンテーション） 対象の安全・安楽を考慮し、どのように判断し、なぜそうしたのか話し合う。	演習	
12	緊急時の対応、実際（１）	対象の緊急時の対応をどのように実践するのかを考える	場面②の状況に対するQ2：看護師としてどのように対応するか、緊急時の対応を実践しながら考える。	演習	
13	緊急時の対応、実際（２）	対象の緊急時の対応が述べられる	グループ発表（プレゼンテーション） 対象の状態をどのように判断し、なぜそうしたのか話し合う。	演習	
14	緊急時の対応、実際（３）	膀胱内留置カテーテルの交換の基本的知識、技術、態度を理解する	膀胱内留置カテーテルの交換	演習	
15	多重課題や緊急時の学びの統合	援助を振り返り、タイムプレッシャーや急変時の自分の傾向を知る	まとめ 演習でのタイムプレッシャーや多重課題時の自己の傾向を知り、患者の安全・安楽を守り、確実な援助を行うための行動を振り返る。	講義 GW	

分野	看護の統合と実践 －看護の統合と実践－	対象学年	3
		時期	後期
授業科目	看護の統合と実践演習Ⅳ Integration and practice Nursing Practice Ⅳ	単位	1
		時間	30
		方法	講義・演習
担当教員	始業後、担当教員一覧および授業ガイダンスにて確認		
科目責任者	担当者複数の場合は、担当教員一覧にて確認		
授業概要	対象に適した看護技術を安全に提供するための実際を学ぶ。統合技術試験では、注射の目的や対象の状況を理解し、安全に正確に提供するための実際を学ぶ。 また、防災演習では、病院からの避難・誘導を経験し、災害時の看護師の役割を考える。更には、既習の知識を活用し、心肺蘇生法を後輩に伝達指導する。 複数受け持ち演習では、模擬患者の事例から、多重課題、優先順位を判断する根拠や問題点を考え、対象にあった看護を安全に提供できる判断力を養う。また、医療依存度の高い患者に必要な技術の実践として、実習経験の頻度が低い口腔・鼻腔吸引・体位ドレナージの実施を基本知識の確認を行い、対象の状態に合った技術を理解する。呼吸管理の流れとして人工呼吸療法についても学ぶ機会とする。		
目標	1. 対象にあった看護技術を模擬患者に実施することができる。 2. 安全な医療提供のための看護の実際を学ぶ。 3. 模擬複数患者に対する患者管理を学ぶ。		
評価方法	統合技術試験 与薬：技術試験 1 項目 10 点 3 項目 計 30 点 評価は、評価表の項目に基づき評価し、1 度目の試験結果が成績となります。 しかし、技術の保証のため、再試験を受けて合格するまで実施してください。 防災演習 避難訓練：演習レポート 10 点 計 10 点 複数受け持ち演習 技術演習：計 60 点 事前学習、演習レポート、演習への参加態度、テーマに沿ったレポートを総合して評価します。		
使用テキスト			
参考図書			
メッセージ	<統合技術試験 与薬> この単元は、技術試験となります。オリエンテーションは、単元の時間外に事前に行います。各自が試験にむけて計画を立てて自己学習し練習を行いましょう。 安全・確実な技術の修得を目指しましょう。 <防災演習 避難訓練> この単元は、秋季避難訓練の中で実施されます。避難訓練の内容や避難経路を事前に確認して下さい。BLS 訓練は、当日の計画を立案し、事前の確認や準備を行い演習にあたって下さい。後輩全員へ指導ができるよう臨むことを期待します。 <複数受け持ち演習 技術演習> 病態生理各論で習った知識を活かして看護を理解しましょう。		

回数	単元・主題	授業のねらい	授業内容	方法	備考
1	注射に関する看護技術	目的を理解し、安全かつ正確な注射に関する技術を理解する	＜1～4 統合技術試験＞ 統合技術試験内容は以下の3項目を実施する。 ・静脈注射 ・静脈内点滴注射 ・静脈血採血 技術試験は1項目。 試験項目は前日発表となる。	試験	
2	注射に関する技術試験	目的を理解し、安全かつ正確な注射に関する技術を理解する	静脈血採血	試験	
3	注射に関する技術試験	目的を理解し、安全かつ正確な注射に関する技術を理解する	静脈注射	試験	
4	注射に関する技術試験	目的を理解し、安全かつ正確な注射に関する技術を理解する	静脈内点滴注射	試験	
5	防災演習	実習場所からの避難経路がわかり、災害時の対応が述べられる	防災演習（避難訓練参加） 1)災害時の避難、誘導	演習	
6	BLS 演習	心肺蘇生法の技術の習得および後輩へ伝達指導する	2)救命救急処置 チューターグループ毎にBLSを行う。 所要時間内に全員が体験できるよう計画立案し、実践する。	演習	
7	災害時の看護師の役割	避難訓練を通して災害時の看護師の役割を述べられる	3)まとめ レポートをもとにディスカッション テーマ：避難訓練を通して、看護の視点で感じたこと、考えたこと	個人ワーク	
8	複数受持ち演習	複数受持ち模擬患者の情報から、1日の業務計画を立案する	＜8～11 複数受持ち演習＞ 1.複数受け持ち患者の情報の整理 2.複数受け持ち患者の1日の業務計画立案と時間管理・調整	個人ワーク	
9	複数受持ち演習	多重課題発生時の優先順位を判断する根拠を述べられる	1)患者情報の整理と多重課題の抽出 2)多重課題、優先順位の判断 どのような思考を用いて判断したのか ・優先順位の判断 ・重症度の判断 ・緊急性の判断 ・患者の安全 ・報告・相談・連絡	GW	
10	複数受持ち演習	自己の傾向を理解し、多重課題発生時の問題点とその対応を述べられる	1)多重課題、優先順位を判断する根拠、問題点とその対応 ・優先順位の判断 ・重症度の判断 ・緊急性の判断 ・患者の安全 ・報告・相談・連絡 ・自分の心理	GW	

11	複数受持ち演習	自己の傾向を理解し、多重課題発生時の問題点とその対応を述べられる	1) 多重課題、優先順位を判断する根拠、問題点とその対応 ・優先順位の判断 ・重症度の判断 ・緊急性の判断 ・患者の安全 ・報告・相談・連絡 ・自分の心理	GW	
12	医療依存度の高い患者に必要な技術	原理原則に基づいた口腔・鼻腔吸引・体位ドレナージを理解する	<12～15 医療依存度の高い患者に必要な技術の実践> 基本知識の確認を行いながら、口腔・鼻腔吸引・体位ドレナージの実施	演習	
13	医療依存度の高い患者に必要な技術	対象の状態に合わせた口腔・鼻腔吸引・体位ドレナージを理解する	医療依存度の高い患者に必要な技術の実践 模擬患者の状態に合わせて、口腔・鼻腔吸引・体位ドレナージの実施	演習	
14	人工呼吸療法	人工呼吸療法について理解する	人工呼吸療法 人工呼吸器の設定項目 人工呼吸器使用の流れ 加温加湿器と人工鼻 人工呼吸中のモニタリング、パルスメーターオキシメータについて	講義	外部講師
15					

分野	看護の統合と実践 －看護の統合と実践－	対象学年	3
		時期	後期
授業科目	看護理論演習 Practice of Nursing Theory	単位	1
		時間	15
		方法	講義・演習
担当教員	始業後、担当教員一覧および授業ガイダンスにて確認		
科目責任者	担当者複数の場合は、担当教員一覧にて確認		
授業概要	ケーススタディの発表で看護についての考えを深める。その後、看護の統合と実践実習後の統合カンファレンスでの「看護について」グループで考えた内容を発表し、全体で看護に対する考えを深める。3年間の学びの集大成として、これまで深めてきた自己の看護観をまとめる。これまでの看護の経験を通して、理論を活用し意味づけができ、自己の看護観を深める機会とする。		
目標	1. ケーススタディに取り組み自分の看護について思考する。 2. 看護に対する考えを深める。 3. 看護の理論を活用して探求する。 4. 自己の看護観を深め自己の「看護観」をまとめる。		
評価方法	ケーススタディ発表：指導教員評価および講評による評価 ケースレポート作成の評価 20点、発表の評価 10点 計 30点 看護の統合と実践実習後の統合カンファレンス：態度評価 20点 看護理論演習：出席状況、態度、課題、レポート評価を総合して評価する 50点		
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学【1】 看護学概論（医学書院） やさしく学ぶ看護理論（日経研出版） 看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方.第2版,照林社,2009,60.		
参考図書	系統別看護学講座 別巻 看護情報学 医学書院 看護研究こころえ帳 医歯薬出版 エssenシャル 看護情報学 医歯薬出版		
メッセージ	ケーススタディの発表を通して、お互いに看護についての考えを深めていきましょう。 統合実習後の統合カンファレンスでは、「看護について」グループで考えた内容をわかりやすく発表しましょう。 看護観をまとめることは、3年間の学習の集大成です。 実習・ケーススタディで深めた自己の看護観をまとめましょう。		

回数	単元・主題	授業のねらい	授業内容	方法	備考
1	ケーススタディ 発表	ケーススタディ発表で、看護についての考えを述べられる	1.担当教員からケーススタディの指導を受け、看護の意味づけをする。 2.得られた学びを学校内で発表する。 3.評価を受けて自分の看護観に繋げる。	発表会	
2					
3	統合カンファレンス	看護の統合と実践実習で学んだこと、看護についての考えを述べられる。	1.看護の統合と実践実習で、看護の経験を通して学んだこと、看護に対する考えを深める。 2.グループで発表資料を作成し、発表する。 3.全体討議を通し、看護についての考えを深める。	統合カンファレンス	
4					
5	看護理論の理解	さまざまな看護理論について理解する	1.さまざまな看護理論① 看護理論の種類 特徴 ①哲学：ナイチンゲール ②大理論：キング ③状況理論 ④中範囲理論	講義	

6	看護理論の理解	さまざまな看護理論について理解する	1.さまざまな看護理論② 看護理論の種類 特徴 ①働きかけの看護理論：ヘンダーソン ②人間関係理論：ペプロウ・キング ③対象論的看護理論：ロイ・ニューマン	講義	
7	看護観GW	看護の統合と実践実習前にグループで各自の看護観を共有する	1.看護観指導① 事前に提出された看護観をもとに指導を受ける	GW 演習	
8	看護観GW	実習の体験を通して得た看護観を深める	1.看護観指導② 事前に提出された看護観をもとに指導を受ける	GW 演習	看護観指導は、看護の統合と実践実習での指導担当教員から指導を受ける。その後、看護観提出収録集を作成し、国家試験受験後、看護観発表会を行う。（発表は評価に含まれない）

3) 臨地実習

在宅看護論実習、看護の統合と実践実習は、実習要綱に記載